

1 団体名 みらいのこども舎

2 今年度の活動概要

①環境構成に関すること

(例：園庭づくり，フィールド整備 など)

みらいのこども舎では、海や川、山などの島の自然の中での活動と自分たちのフィールドでの活動を曜日ごとに行っており、活動の中でありのままの自然の中で五感を働かせて遊ぶ体験も、自分たちでフィールドに手を入れながら環境を作ることも両方大事にしています。

例えば、草刈りをする時に全てを地際で短く伐り揃えるのではなく、わざと刈らない部分を作ったり、特定の植物が繁茂するのを防ぎながら全体のバランスを見ることで、植物や昆虫などの生物多様性が高まり、それによって子ども達の遊びや学びの多様性に繋がっています。

ただ、安全の確保も大事なので、よく歩いたり走ったりする場所については小まめに草刈りをするようにしています。

また、フィールドの一部が元々耕作放棄地だった場所で釘や割れたガラスなどのゴミが埋まっていることがあるので、見つけるたびに拾いながら少しずつ、遊びやすいフィールドになって来ました。

- ・畑作り・・・麦を植えて麦茶やヒンメリ作り
- ・海や川の活用・・・磯遊び、海遊び、水の生き物探し
- ・防災ルートの散歩・・・津波に対する避難経路を散歩コースとして定期的に歩いています
- ・危険生物・・・もしもの時の情報を掲示して保育メンバー、保護者、子どもたちと共有しています
- ・夏の暑さ対策・・・寒冷紗の設置



## ②遊びの事例や、子どもの育ちに関すること

(例：自然物を活用した玩具づくり、自然を活用した遊び など)

その日、その習慣に自分のやりたいと思ったことを心ゆくまで出来ることを大事にしています。子どもたちが自由に遊ぶことと、大人たちがやっていることを見ながら、段々と興味と出来ることが広がっていきます。

ある寒い冬の日の朝、前日にままごと遊びをしていて、水の中に入れて忘れていた花が翌日凍って綺麗な氷になっていた時。自然の不思議に、みんなで大興奮でした。また、ある日は、森で小枝を拾って毛糸と枝のオーナメント作りをしました。

### 【育ちの一例】

- ・日々の散歩や木登り、鬼ごっこなどの遊びを通して体力がつきました
- ・毎週のクッキングでの基礎の包丁の扱い方・切り方、火の扱い方、旬の食べ物などについて学びました
- ・魚を捌くのを身近に見て生き物の身体について知りました
- ・草花や果実など身近にある食べられるものを知りました
- ・虫や草花の名前を知りました



### ③その他、自然体験活動の実施にあたって工夫したこと

(職員の資質向上の取組、地域との関わり、保護者理解に向けた取組 など)

保育メンバー一人一人がそれぞれ育ってきた環境や価値観も違う中で、みらいのこども舎という団体として、一緒に活動するためには団体の方向性から日々の活動の内容まで、丁寧に確認と擦り合わせをしながら活動することを大事にしています。一部の人の意見が通るのではなく、全員が納得出来る形で進めることが時間は掛かっても、長い目で見たときに活動の安定感に繋がるのではと考えています。また、保育メンバーの LINE グループを作り、活動日以外でもオンラインでのコミュニケーションを活発に行なっています。

また、地域の人との関係性を構築する上でも、活動の中だけではなく、準備を含めた日頃のコミュニケーションを通して、想いを共有し合い、一緒にやりたいことを考えたりしています。畑に果物や野菜の収穫に誘って頂いたり、小さな生き物の生態や小さな命でも懸命に生きているということを語って頂くことによって、子ども達が自然をもっと身近に大切に出来るようになるキッカケになっています。

また、保護者さんとのコミュニケーションを深め、地域の方にも自分たちの活動のことを知ってもらうために、マルシェイベントに保育メンバーと保護者の有志メンバーが一緒になって出店しました。お互いによく話すことで相互理解に繋がっています。

- ・畑と動物の見学
- ・田植え、稲刈り体験
- ・藍染体験
- ・藁を使ったしめ縄作り体験
- ・芋植えと収穫体験
- ・正月の餅つき大会

